

# ellipse

[エリプス]

## TOPICS

東京都とお茶の水女子大学が共同開催

「ガラスの天井を打ち破れ！」

～女性も男性も輝く未来へ～

(女性が輝く TOKYO 懇話会)

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター  
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。



特定非営利活動法人  
お茶の水学術事業会

## REPORT

夢のつばさ♥プロジェクトニュース

事業報告

2019年度セミナー「こころとからだを拓くレッスン」

## INFORMATION

イベント情報

事務局よりお知らせ

## 東京都とお茶の水女子大学が共同開催 「ガラスの天井を打ち破れ! ～女性も男性も輝く未来へ～」 (女性が輝く TOKYO 懇話会)

日時：令和元年 11 月 27 日 16 時 40 分～18 時 10 分  
会場：お茶の水女子大学講堂（徽音塾）



### ◆ きっかけは平成 30 年度東京都女性活躍推進大賞

小池百合子都知事は「誰もが活力を持って安心して生活ができる、そしてサステナブルな成長を続ける、更には、日本の牽引役として世界で輝ける新しい東京」を目指し、東京を「セーフ シティ（安全・安心）」「ダイバーシティ（誰もが生き生き）」「スマート シティ（環境や金融、経済に 優れる）」の 3 つシティにすることを提唱しています。この中のダイバーシティの実現に欠かすことができないのが女性の活躍推進です。

東京都は、平成 26 年度に「東京都女性活躍推進大賞」を設け、「全ての女性が意欲と能力に応じて、多様な生き方が選択できる社会の実現」に取り組む企業・団体・個人を顕彰しています。

お茶の水女子大学は、平成 30 年度に「教育分野」の大賞を受賞しました。これは「学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というスローガンのもと、研究者支援制度、社会人女性を対象とする生涯学習講座（徽音塾）の実施、自治体との支援協定の締結を通して、女性リーダーの育成に取り組んできたことが高く評価されたものです。そして、この受賞がきっかけとなり、令和元年度の「女性が輝く TOKYO 懇話会」がお茶の水女子大学で開催されることになりました。



東京都生活文化局東京都女性活躍推進ポータルサイト  
「平成 30 年度東京都女性活躍推進大賞事例集 受賞者の取組」より  
<http://www.tokyo-danjo.jp/women/women/30taisho.html>

### ◆ 「女性が輝く TOKYO 懇話会」

(<http://www.tokyo-danjo.jp/women/event/index.html>)

平成 29 年度にスタートしたこの事業は、社会の第一線で活躍するゲストと小池都知事が女性の活躍について、様々な角度から語り合い、情報発信や提言を行っていくものです。第 1 回目は「わたし色」に未来を描こう～働く前から考えるキャリアデザイン～と題して、結婚・出産などライフイベントの影響を受けやすい女性のキャリア形成を取り上げました。続く平成 30 年度は、女性の参画が十分に進んでいない業界にスポットをあて、「建設業編」「運輸業編」「情報通信業編」の 3 回にわたり、それぞれの業界で活躍する女性たちが仕事の魅力、生活と仕事の両立方法などについて発信しました。

そして、令和元年度のテーマは「ガラスの天井を打ち破れ!」。会社で管理職として活躍する女性二人と小池都知事、室伏学長が、キャリア形成、ライフワークバランス、女性を取り巻く環境や意識の変革について語り合いました。

#### 【登壇者】

小池 百合子 氏 東京都知事

室伏 きみ子 氏 お茶の水女子大学長

青山 美奈 氏

株式会社ブリヂストン 先進材料企画部長

1991 年にお茶の水女子大学大学院理学研究科化学専攻修士課程を修了し、株式会社ブリヂストンに入社。タイヤ材料開発部、育児休職、品質保証部、CSR・環境戦略企画推進部を経て 2018 年から現職（ダイバーシティ推進ユニット主任部員を兼任）。2 児の母。

柴田 裕子 氏

東海旅客鉄道株式会社 人事部勤務課担当課長

1997 年に東京大学教育学部を卒業し、東海旅客鉄道株式会社（JR 東海）に入社。人事部で人事運用及び人事システム構築に携わった後、名古屋セントラル病院立ち上げプロジェクト、育児休職、グループ会社人事部門でのマネージャー経験等を経て 2015 年から現職。2 児の母。

モデレーター 池田 伸子 氏 NHK アナウンサー

2008 年お茶の水女子大学生活科学部人間生活学科卒業





## [1] 会社選びとキャリア形成

就職時に「やりたい」ことが絞られていた青山さん、「燃え尽きない」ことを重視した柴田さん。二人に共通するのは、「寿退社」を考える女性が少なくなかった時代に、結婚して子どもができて仕事も続けるという前提で就職活動を行ったことでした。

青山：小学生の頃から理科と車が好きだったので、大学院修了後は自動車関係の研究開発職を志した。就職にあたって重視したポイントは「専門である化学を生かせること」「自動車関連産業であること」「グローバルな活躍が望めること」の3点。1991年に入社後、2度の育児休職を挟み、2018年まで研究所で開発関連業務に従事した。

特に印象に残っている仕事は、2006年に中国に事業拠点（原材料の開発専門の研究所）を設立するプロジェクトに主担当として参画したこと。なぜ今そこに研究所が必要か、という機能を持たせるかを明確にし、社内外関係者との交渉や経営陣への答申にあたった。社外関係者はほとんど中国の方で、文化や法律などの背景が異なる大変さはあったものの、夢と熱意をもって取り組むことができた。

柴田：3歳上の姉とその友人から、総合職で入った女性が燃え尽きて辞めていくという話を聞いていたので、第一に「子どもを産んでも仕事が続けられる、燃え尽きない会社に入ろう」と考えた。そのうえで、社会に貢献でき、この人たちと一緒に仕事をしたいと思えた会社を選び、主に人事畑を歩んできた。具体的にどんな仕事をやりたいという強いこだわりがあったわけではないが、むしろそれが良かったと思う。食わず嫌いをせずに、任せられた仕事にその都度真剣に取り組んだことが今につながっていると感じる。

転機となったのは、2004年に名古屋セントラル病院の建て替えプロジェクトに携わったこと。最初は「鉄道会社に入ってなぜ病院？」と気が進まなかったが、医務職の方と一緒に仕事をすることを通して得たものは大きかった。中でも、子育てをしながら看護部長として活躍している50代の女性と出会い、出産・育児のためにキャリアが中断したとしても最終的には能力によって評価されるという実例を目の当たりにしたことは、自分にとって大事な経験だった。



## [2] ライフワークバランス

青山さん、柴田さんとも二度の育児休職と復職を経験しています。どちらの会社もそういう女性のやる気をどんどん引き出す制度を持っていたことに対し、小池都知事は「先進的」、室伏学長は「女性の能力を十分に生かすことは、企業のため



にも大きな意味を持つし、社会のためにも役立つということを、きちんと理解している」と評価しました。とはいえ、当事者がライフとワークを両立させるには、様々な苦勞があり、それを乗り越える工夫が必要でした。

青山：入社した頃は24時間全部が自分のものだったが、結婚、出産とステージが進むと時間的な制約がでてくる。そこをどうやりくりするかが一番難しかった。

会社にいられる時間が限られるので、生産性を上げることが1つのキーになる。1時間あたりどれだけ仕事ができるのか、30分あたりどれだけアウトプットを出せるのかを常に考える。そのためには自分の能力を高めることが重要だということに、その頃は気づく余裕がなかった。優先順位を明確にしてあきらめるものはあきらめる、世間のあるべき論にとらわれずレトルトの離乳食やサポートシステムなどのサービスを活用するなど、時間をうまく捻出し、自分の能力向上ももっと考えれば良かったという思いがある。

また、制度は根付くまでに時間がかかるものなので、実際に体験した者がどんどん声を上げて、制度を変える働きかけをし、新たな制度を活用し、有効性を示していくことが必要だと思う。

柴田：育児休職から復職したときには、それ以前の仕事のやり方の残像に苦しんだ。仕事を自分の理想の形まで仕上げつつ、子どもにもしっかり向き合おうとして、すぐに壁にぶち当たった。

そこで優先順位を考え、「子どもも育てつつ、仕事を辞めないというところが一番大事で、その方が会社にとっても良いはずだ」と自分を納得させた。仕事は何時までと自分で決めて、できない分はやらない、人に任せる、できが悪くても出す。家の中が多少散らかっていても「お母さんがご機嫌な方が子どもには良いはず」と考え、無理な家事はしない、というふうに2年ぐらひかけてやり方を変えていった。

今は、子育てが自分の人生にプラスになっていると心から思える。結局仕事というのは「子育て」に帰結すると考えているので、子育てから学んだこと一例えば「叱るよりも褒めた方がよくやる」一は、仕事にも役立っている。

### [3] ガラスの天井



資質・能力に関わりなく女性の社内での上級職への昇進や意思決定の場への登用などを阻害している見えない障壁を「ガラスの天井」と呼ぶことはよく知られていますが、青山さん、柴田さんにとって、それはどのようなものだったのでしょうか。そして社会の様々な場面に今なお見えない壁があるという現実をどのように考えればよいのでしょうか。

青山： 女性の活躍がそれほど一般的でない時代に入社したが、「青山さんはお子さんが小さくて無理そうだから誘わなかったけど、あの案件は飲み会の場で決着したから」というように先回りをして配慮されるのが一番辛かったです。配慮と差別は紙一重とすることも。職場で制約がある働き方をしているメンバーを持つ方は、先回りし過ぎた配慮でモチベーションを損なうことのないよう、本人の意向を確認してあげて欲しいと思う。



もう1点、私の時代は、女性は総合職で入社しても配属先は本社か研究所で転勤や工場勤務がほとんどなく、仕事の幅を広げることがしづらかった。経験不十分なまま組織のマネジメントを任されることになり「どうしよう?」と戸惑った。広い視野を持ち、周囲の先輩のやり方を見習って自分を磨くことをもっと考えれば良かったと思う。

柴田： 私の会社は、男女雇用機会均等法の施行後は男女を平等に扱うという方針で、研修制度や人事異動もそうであった。逆に言うと会社や社会のシステム自体が男性目線で作られている不便さを、若い頃から身をもって感じるようになった。

例えば、結婚して姓が変わることに対する不満や不便さ、あるいは「小1の壁」などは、男性にはなかなか理解されず、変えて欲しいと上司に訴えても、「お金がかかってメリットが分からない」で終わってしまう。管理職になって初めて、「こういう不利益があって、それは会社のためになりません」と直接経営陣に訴えることができるようになり、仕事上での旧姓使用や子どもの小学校入学時の育児休職を認める制度が取り入れられた。



小池： 男性によって作られている会社のルールなどを変え、社会そのものをより健全にしていくためにも、意思決定の場に女性がいることが必要である。

最初からガラスの天井があると言うと、それだけでエクスキューズを作ってしまうことになるので、まずはやってみる。

チャレンジをして、ゴツンと頭を打ってから、じゃあ、次はどのようにしてそれを改善するかと考えた方が建設的だと思う。ここで私がやらなければ誰がやるのかというぐらいの気概や使命感を持ち、みんなで何度もぶつかって打ち破っていききたい。

室伏： 女性たちが持っている能力を生かして仕事をするためには、個人の努力だけではどうしようもないことが多々あり、周囲が環境を整えていくことがとても大事だと感じる。まずは「困っていますから何とかしてください」と声をあげ、周りの気づいていない人たちに気づいてもらい、仲良く力を合わせて解決していくことが大事だと思う。

固定的な性別役割分担意識は、女性の大きな足かせになっているだけでなく、男性をも縛っていると最近感じる。男たるもの強くなければいけない、家族を養わなければいけないと真剣に考え、長時間労働や危険な職業に就き、健康を損ねる。女性に比べ自殺率が高く、平均寿命が短いなど、「ガラスの地下室」と言われる状況がある。

女性も男性も暮らしやすい世の中にしなくては、これからの日本は立ち行かない。私がやらなければ誰がやるという気持ちで、一人一人が持ち、女性と男性がお互いを信頼し尊重しあい、共に努力するのが望ましい姿だと思う。

\* \* \* \* \*

紙面には紹介しきれませんでしたが、管理職に必要とされる視点についてのお話や、参加者からの質問に答えるコーナー、会場の学生へのメッセージもありました。

一連のお話を通して、登壇者には2つの共通認識があるように感じました。1つは、時代が変化していく中で、男女を問わず一人ひとりが、自分の将来像(40歳、50歳、60歳…になった時に自分がどういう人であり、どんなところで、どんな人と、どんな仕事をしたいのか、社会にどういった価値を生み出す存在でいたいのか)を考えてキャリア形成をしていく必要があるということ。もう1つは、周囲の人とよくコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことが、働きやすい組織、暮らしやすい社会づくりの第一歩になる、ということです。

フロアには女性を中心に幅広い世代の方がいらっしゃいました。これから社会人になる学生だけでなく、現在子育てと仕事の両立に奮闘している人、組織のリーダーなど、様々な立場の方々が有益なサジェスションを得る機会になったのではないかと思います。

協力：東京都、お茶の水女子大学

## 夢のつばさ♥プロジェクト

「夢のつばさ♥プロジェクト」は、東日本大震災で親を失った子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、お茶の水学術事業会を中心としたNPO法人4団体によって進められている事業です。

## 2019年冬キャンプ

【実施期間】 2019年12月24日～27日

【開催地】 (株)ブリヂストン保養所 奥多摩園 (青梅市)

【参加内訳】 小学生14名、中学生9名、高校生8名、専門学校/短大生3名、大学生ボランティアスタッフ46名(入替り有、OB/OG含む)、社会人スタッフ/協力者14名(看護師含む)

【主な内容】

12月24日	開会式、アイスブレイクゲーム	受験生 スタ デー
12月25日	朝の勉強会、卓球大会、音楽会、クリスマス会、中高生有志プロジェクト	
12月26日	朝の勉強会、先輩と話をしよう(恋愛/結婚、友達、勉強/仕事)、遊園地づくり、20歳の仲間のお祝い	
12月27日	閉会式、写真スライドショー、メッセージ交換、受験生応援カード	

今回のクリスマスキャンプは、子どもたちの終業式との兼ね合いから年末のウィークデーの実施となりました。OB/OGからは「残念だけれどお休みが取れません」「夜だけ駆けつけます」といった声がたくさん入りました。参加者は昨年続き34名と大変多く、新しい小学生も5名参加したため、現役大学生ボランティアの頑張りがここで見られました。

音楽会には、岩崎りえさん、大江雅子さん、坂口璃々己さんの打楽器の演奏者3名が出演され、明るく楽しい素敵な演奏会になりました。最後に、エネルギッシュな演奏の興奮



音楽会

そのままに、参加者全員が輪になって肩を組み、「翼をください」を歌いました。小中学生はちょっと照れくさそうですが、高校生はもうすっかり大学生スタッフたちと同じように楽しんで、大きな声で歌っています。夢のつばさの仲間が一つの大きな家族であるかのような一体感を感じるひと時です。そしていつものサンタさんの登場です。小さい子には、



クリスマス会

もしやと思わせる風貌態度で、子どもたちがちょっと不思議、ちょっと緊張の面持ちでプレゼント(サンリオ提供)を受け取る様子が可愛らしいです。

また中高生プロジェクトは、これまでのキャンプの企画に対する中高生の意見を聞き、今後ともに企画作りをしていこうという試みで、積極的な意見が出ていました。それぞれがこれまでの企画を有意義に感じ、自分たちの中できちんと受け止めて将来に活かそうとしており、科学館や社会見学などを楽しんでいることもわかっただけでうれしく思いました。3日目の先輩と話をしよう企画と相まって、中高生とスタッフが心を開いて話し合う様子がたくさん見られました。



先輩と話をしよう

小学生は段ボールや板や棒、椅子、模造紙や紙テープ、ビニール袋、様々な飾り物を使って、遊園地を作りました。台車を使ったトロッコに乗って通路を進み、それぞれが作ったスポットを巡ります。みな大満足で、力作がいくつもできていました。

20歳を迎えた参加者を祝う企画では、「最初は自分の気持ちが出せなかった。いろいろな企画で話をしながら少しずつ自分の将来を考えるようになった」「大震災の後、本当に辛いときがあったが、夢のつばさに参加して大学生に話を聞いてもらったり、みんなに会ったりして安心できた。夢のつばさのおかげで、今はやりたいことに向かって頑張っている」などの感想を述べ、皆から大きな拍手が送られていました。

この活動がいつも皆様に温かく支えられ、続いていることを、夢のつばさ一同、本当にありがたく感じております。引き続きご支援をよろしくお祈りいたします。

(夢のつばさ♥プロジェクト)

ご寄付のお願い

【口座】 三井住友銀行 大塚支店(店番号227) 普通1284200

【名称】 特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会 理事長 平野由紀子 ※ 夢のつばさ♥プロジェクトの専用口座です。ご寄付いただく際には、ご芳名、ご住所(連絡先)を下記までお知らせください。

※ 恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。

連絡先: 事務担当 滝澤公子 TEL&FAX: 03-5978-5362 E-mail: tsubasa@npo-ochanomizu.org

## ◆ 事業報告

● お茶の水学術事業会 2019 年度セミナー実施報告

## 「こころとからだを拓くレッスン」

講師：猪崎 弥生 氏（放送大学東京足立学習センター所長・お茶の水女子大学名誉教授）  
落合 敏行 氏（音楽家・企画集団「落合商店」主宰）【開催日時】 2019年11月14日（木）  
午前10時～11時30分【会場】 お茶の水女子大学  
Student Commons 2F マルチパーパス1

【受講料】 500円

【参加】 24名

一昨年、昨年に引き続き通算5回目となる「こころと体を拓くレッスン」を開催した。

今回の参加者は24名。第1回、第2回あたりは、この耳慣れないテーマに参加前の戸惑いの雰囲気を感じられた会場も、回を追うに従って、何回目かの参加経験あるいは誘い合わせての参加のためか、楽しみという雰囲気が漂っていた。

レッスンは、約60畳はあるかという天井の高いホールに、各人がヨガマット分のスペースで空間を取り、前回までと同じように体をほぐすことから始まった。講師の声かけでヨガマット上に仰向けに寝ると、高い天井と窓から差し込む秋のほどよい量の日光、そして空間に穏やかに充満する落合講師の音楽に、日常の煩わしさから離れた非日常を感じる。床に寝ているのに大地を感じられるようだ。

体をほぐしに約40分という十分な時間をかける。主に肩、腕など上半身を中心に体をほぐすいわ

ゆるストレッチングだが、猪崎講師の「無理をせず、ゆっくり」という伸びやかでゆったりとした声かけに、普段の、5分のラジオ体操もせかせか、柔軟体操も短時間でぎゅぎゅ、時間がないといったら早送りもたびたびという生活からの解放を感じる。こういうことが「こころとからだを拓く」端緒なのかもしれないと改めて思う。

十分体がほぐれ、うっすらと汗をかいたところで、短い休憩。水分補給の合間に参加者同士にできた緩やかな繋がりをを感じる。

後半は、リズムが少し速くなり、決して難しくなく、ま

たそれほどハードでないいくつかの動作を徐々につなげていってダンスらしくなっていく。すると次第に活発な楽しい気分

変わってくる。メロディーもそうだがリズムというものが楽しさに誘ってくれる大切な要素であるのを感じる。

講師が随所に発する「自分の体を感じてください」という声かけを受け、自分の体に意識を向けてみると、自分の心にも眼が向かい、日頃自分の外に眼が向き過ぎていることを実感した。

一方、皆で輪になったり、周りの人とぶつからないように自由に歩き回るといふ動きでは、他者の心や体と自分の繋がりを感じ、終わってみると和やかな爽快感に満ちていた。

今回、体をほぐすというベーシックな部分に十分な時間をかけていただいたことで、改めて早送りでない実時間の大切さに気付いた。またダンスが自分と向き合えるツールにもなるということは新しい発見であった。ダンスは表現手段かと思っていたが、自分と向き合ってこそその表現ということなのだろうか。

このセミナーは今回が最終回だと謳った講師に、終了後、再び、更に定期的に開催してほしいとの声

が会場のあちこちで聞こえた。講師がダンスの世界にこの上さらに一歩を踏み出し、立ち止まらないという気持ちがあるからこそ、今回のような素晴らしい指導がなされたのだろう。その一方で、この上質な時間をまた、と願うのは当然と思う。

会場も含めて当事業会ならではの貴重なひとときであった。





# お茶の水女子大学 イベント情報

2020年3月以降に開催される各種イベントのお知らせです。

開催日時	イベント・講座名	参加費	備考
3月3日(火) 18:00～21:00 (開場 17:30)	<b>国際女性デー記念イベント</b> 121位の私たち ジェンダー格差をどう変える 出演者：室伏きみ子 お茶の水女子大学長 ジェシカ・ベネット氏 (ニューヨーク・タイムズ 前ジェンダー・エディター) フランチェスカ・ドナー氏 (ニューヨーク・タイムズ ジェンダーイニシアティブ・ディレクター) ほか	一般： 1,000円 学生： 無料	【会場】お茶の水女子大学講堂(微音堂) 【主催】朝日新聞社、お茶の水女子大学 【特別協力】ニューヨーク・タイムズ 【詳細】 <a href="http://www.ocha.ac.jp/event/20200124.html">http://www.ocha.ac.jp/event/20200124.html</a> 【問合せ】お茶の水女子大学「国際女性デー記念イベント」事務局 e-mail: IWD2020@cc.ocha.ac.jp 【申込み】 <a href="https://globe.asahi.com/article/13042673">https://globe.asahi.com/article/13042673</a>
3月16日(月) 9:30～12:40	<b>ヒューマンライフィノベーション開発研究機構国際シンポジウム</b> 健康で心豊かな「人生」を科学するーヒューマンライフィノベーションの創出と挑戦 ◇ 基調講演 ① 楊素卿先生 (台北医学大学教授) ② 榊原洋一先生 (お茶大名誉教授) ◇ ヒューマンライフィノベーション研究所研究報告 飯田薫子、毛内 拓 ◇ 人間発達教育科学研究所研究報告 菅原ますみ、浜野 隆 ◇ 総括 森田育男 (ヒューマンライフィノベーション開発研究機構長 (理事・副学長))	無料	【会場】お茶の水女子大学本館 306 教室 【主催】ヒューマンライフィノベーション研究開発機構 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 お茶の水女子大学ヒューマンライフィノベーション研究所 【詳細】 <a href="http://www.ocha.ac.jp/event/20200207.html">http://www.ocha.ac.jp/event/20200207.html</a> 【問合せ】人間発達教育科学研究所事務局 info-iehhd@cc.ocha.ac.jp 【事前申込み】3月10日まで事前申込受付 <a href="https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Plone/iehhd/ohli0316">https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Plone/iehhd/ohli0316</a>
3月20日(金・祝) 9:30～12:30 (受付 9:00～)	<b>第3回統計教育シンポジウム</b> 「小中高の体系的指導で育てる統計的問題解決力～PPDAC サイクルを通して方法知を身に付ける～」 ◇ 講評&講演 「学校教育におけるデータサイエンスのこれから～何のために、誰のために～」(西村圭一氏：東京学芸大学教授) ◇ プログラム 附属小・中・高教諭による実践事例	無料	【会場】お茶の水女子大学本館 306 教室 【共催】お茶の水女子大学附属学校園連携研究 算数・数学部会 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 保育・教育実践研究部門 【詳細】 <a href="http://www.ocha.ac.jp/event/20200222_2.html">http://www.ocha.ac.jp/event/20200222_2.html</a> 【問合せ】人間発達教育科学研究所事務局 info-iehhd@cc.ocha.ac.jp 【申込み】3月18日までに以下より事前申込 (当日申込無し) <a href="https://kokucheese.com/event/index/587904/">https://kokucheese.com/event/index/587904/</a>
3月22日(日) 14:00～17:00	<b>第21回リケジョ - 未来シンポジウム</b> ◇ 講演 ◇ パネルディスカッション	無料	【会場】お茶の水女子大学 大学本館 306 室 【主催】理系女性教育開発共同機構 【後援】国立女性教育会館 【対象】女子高校生・中学生、保護者、教員、大学生・大学院生 【詳細】 <a href="http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/21strikejo/">http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/21strikejo/</a> 【申込】HP内の専用フォームまたは E-mail、FAX で 締切：3月19日(木) 【問合せ】理系女性教育開発共同機構 E-mail: ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp TEL: 03-5978-5825 FAX: 03-5978-2650
5月30日(土) 13:30～15:30 (予定)	<b>ホームカミングデイ 2020</b> 化学科・桜化会 OUCA 共同企画 公開講演会 講演1「化学と数学とお茶大生」(仮題) 講師：細矢治夫先生 (お茶の水女子大学名誉教授) 講演2「女子中高一貫校の役割～理科好き女子は、のびのびとした環境でこそ育つ～」(仮題) 講師：大内まどか氏 (昭 63 化、平 3 院修、鷗友学園女子中学高等学校教頭)	無料	【会場】お茶の水女子大学 【問合せ】お茶の水女子大学理学部化学教室内 桜化会 OUCA E-mail: ouca@cc.ocha.ac.jp Fax: 03-5978-5290 URL: <a href="http://www.sci.ocha.ac.jp/chemHP/ouca/index.html">http://www.sci.ocha.ac.jp/chemHP/ouca/index.html</a>
7月19日(日) 13:00～17:00	<b>第22回国際日本学シンポジウム</b> 「高度経済成長期における食生活の変化」		【会場】お茶の水女子大学 【主催】グローバルリーダーシップ研究所比較日本学教育研究部門 【共催】国立歴史民俗博物館 ※詳細は次号にてお知らせします。

# お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾 2020年度



詳細と各申込は、徽音塾ホームページ <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/> をご覧ください。

2020年度は、本講座6講座と、教養がテーマのトライアル講座5講座で構成されています。※「きいんじゅく」で検索可能です。

## 【2020年度 説明会・特別講義】

※ホームページの「お知らせ」から詳細をご覧ください。

日時	2020年3月7日(土) 10:30～12:00(10:15受付開始)
場所	お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ セミナー室(3階)
参加費	無料(要申込、男性の研修担当者の視察も可能です) ホームページ→「お知らせ」→「2020年度 徽音塾説明会 &特別講義のお知らせ」→「お申込」からお申し込み下さい。
内容	特別講義(約60分) 「新規事業開発に効く！イノベーションと企業家活動」 講師 鹿住倫世(徽音塾 実施委員/専修大学 商学部 教授)

## 【2020年度 トライアル講座 4月】

日時	2020年4月18日(土) 13:30～16:40
場所	国際交流留学生プラザ2階多目的ホール
内容	「和食における米と混合だしの食文化」 講師 香西みどり(お茶の水女子大学基幹研究院 自然科学系 教授)

## 【2020年度 春学期 5月・6月講座】

※前半(2日間) / 後半(2日間)の部分受講も可能です。

時間	13:30～16:40(共通) すべて土曜日
場所	国際交流留学生プラザ2階多目的ホール
5月講座	女性のエンパワーメントとリーダーシップ 5/9「一周回って理想のキャリアを築く方法」(笠松千夏) 5/16「ダイバーシティ社会におけるワーキングマザー管理職の働き方実践」(角田仁美) 5/23「キャリアの選択肢を広げる、付加価値を生む女性たちの仕事」(横田響子) 5/30「これからの、女性のリーダーシップ～グローバルとローカルの視点から～」(近藤美樹)
6月講座	リーダーシップ実践/異文化コミュニケーション 6/6、6/13「貴女のリーダーシップを磨く よりよいキャリアを積むために」(高田朝子) 6/20、6/27「多様性対応コミュニケーション」(吉田友子)

## 【お問い合わせ・連絡先】

お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾 事務局  
TEL: 03-5978-5501(水・金) E-mail: kiin-le@cc.ocha.ac.jp

## 2020年度 共催講演会のご案内

桜蔭会愛知支部公益事業講演会 共催：お茶の水学術事業会

### 「良い油！？悪い油！？ あなたはどちらを摂っている？」

人生100年時代になり、〇〇油がいろいろ。  
ダイエットのために油抜き。糖尿病のために糖  
質抜き。諸説いろいろありますが、健康な食生  
活のためにはどんな油を摂ればいいのか？  
専門家に聞いてみましょう。



【講師】	藤原葉子氏 (お茶の水女子大学副学長、基幹研究院自然科学系教授、 ヒューマンライフイノベーション研究所所長)
【日時】	2020年5月10日(日) 13:30～15:30(受付開始 13:15)
【会場】	ウインクあいち1104号室(名古屋駅前)
【定員】	80名(桜蔭会愛知支部会員を含む)
【お申込み】	4月5日(日)～ 以下①～⑤を記入の上、ouinkai.aichi.2018@gmail.com まで(先着順) ①氏名、②郵便番号・住所、③Eメール アドレス、④連絡のつく電話番号、⑤所属または職業 (桜蔭会会員の場合は卒業年・科も)
【お問合せ】	桜蔭会愛知支部 ouinkai.aichi.2018@gmail.com

## お茶の水学術事業会よりお知らせ

### 2020年度 共催講演会・助成金事業の募集について

お茶の水学術事業会は、定款に定める「教育・研究活動に関する事業」の一つとして以下の事業を行っています。

1. 講演等の共催事業  
広く一般に向けた参加予定人数が50名以上の講演会を対象とし、講師謝礼金の助成(上限3万円)、講師交通費(実費)の支給、広報協力等を行う。
2. 学術・調査・研究・教育等の活動運営支援事業(助成金の支給)  
【対象】(1)学術・調査・研究・教育等の活動  
(2)学術関連等の出版事業  
(3)国内及び海外におけるボランティア活動  
(4)国際協力研究・教育支援事業  
(5)保育及び子どもの健全育成のための活動  
【助成金額】事業費の2分の1以内とし、1件につき10万円まで  
\*対象となる事業期間：2020年4月1日～2021年3月31日  
\*申請受付：2020年4月1日～5月31日(第二次)  
受付期間終了後に、一括審査を行います。  
\*詳細：お茶の水学術事業会HP「共催・助成金」をご覧ください。  
<https://www.npo-ochanomizu.org/kyousai.html>  
\*申請・お問合せ：お茶の水学術事業会事務局  
Email: info@npo-ochanomizu.org  
TEL: 03-5976-1478(月～金 10時～16時)

## 編集 後記

いつにも増して多くの方々にご協力をいただきエリプスが完成しました。いつもながら、その過程で、言葉選びの大切さに気づかされたり、自分にはなかった視点にはっとさせられたり、ということが幾度となくありました。人と人のコミュニケーションがもたらすもの大きさを実感し、感謝の念を覚えます。

## 広告募集

このページに広告を掲載しませんか？次号は2020年5月に2500部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問合せください。

## 事務局

**OPEN 月～金 10:00～16:00**  
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3号館 204  
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail: info@npo-ochanomizu.org  
<https://www.npo-ochanomizu.org>  
※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



- ◆事務局所在地  
東京都文京区大塚2-1-1  
お茶の水女子大学  
理学部3号館204
- ◆交通機関  
地下鉄 丸の内線  
茗荷谷駅から徒歩7分  
地下鉄 有楽町線  
護国寺駅から徒歩8分  
都バス  
大塚2丁目バス停すぐ

